**第四次松阪市子ども読書活動推進計画に対するご意見と回答**

募集期間：令和6年10月11日（金曜日）～令和6年11月15日（金曜日）

【ご意見】

子どもの読書活動の一番の指標と考えられるｐ２の「１．図書館における蔵書冊数・貸出冊数・小、中学校登録者数」、ｐ５の「４．中学校における団体貸出の延べ利用冊数（公・私立）」の「成果と評価及び課題について」ですが、評価がいずれもC 評価です。その要因として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策が挙げられており、それは否定できないことだと思いますが、今後、回復・発展させるための施策が曖昧で、かつ誰が行うのかという主語がありません。　新型コロナウイルス感染症が 5 類へと移行し、制限が緩和されたことにより、以前に戻りつつある部分もあるにせよ、これまでと同様のことをするだけでは完全に回復したり、さらに発展できるとは思えません。新しい、かつ具体的な施策が必要と考えます。

この推進計画の策定には、読書活動の専門家である司書や司書教諭の方は参加されているのでしょうか？

策定はもちろん、その実施や全ての読書活動に関しては、専門家である司書の方の力が必要不可欠です。読書活動を行う施設全て、特に図書館、学校に、子どもたちがいつでも行けるよう、子どもたちにいつでも対応できるよう、司書の方を専任で置いてください。いらっしゃるところは、さらに増やしてください。よろしくお願いします。

【回答】

・C評価に対する要因と今後の回復・発展のための施策について

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの制約が生じたことは否めません。しかしながら、感染症分類が5類に移行し、制限が緩和された現状を踏まえ、現状にとどまることなく、新たな施策を策定し、実行する必要があると考えています。

また、子どもたちがいつでも安心して読書活動に取り組める環境を整えることは非常に重要であり、その必要性を私たちも強く認識しております。そのため、市が主体となり、子どもたちの読書環境を改善・発展させるために、利用者のニーズに応じた蔵書の充実や貸出体制の見直し、学校との連携強化による団体貸出の推進、電子図書館の普及などに取り組んでまいります。

例えば、学校との連携強化については、教科書に掲載される書籍を優先して購入することで、各学校からの依頼に対応できる体制を整えています。また、教科書の改訂に合わせて書籍を入れ替える対応も行っています。さらに、1人1台のタブレット端末の普及により、小学校でも電子書籍が利用できる環境が整いつつあります。電子書籍はオンラインで本を読むことができ、画面の明るさや文字の大きさを変更したり、音声読み上げ機能を使ったりすることができるため、さまざまな子どもたちに読書の機会を提供するとともに、オンラインで本を借りて楽しむ利便性も提供しています。

市はこれらの施策を引き続き関係機関とともに進めてまいります。

・第4次松阪市子ども読書活動推進計画の策定について（委員構成）

松阪市子ども読書活動推進計画策定委員会要綱に基づき、本市における子ども読書推進計画を策定するため、松阪市子ども読書活動推進計画策定委員会を設置しました。この委員会の事務局は生涯学習課が務め、現在も協議を進めております。

当策定委員会の委員は、市教育委員会局長をはじめ、松阪図書館長、小学校および中学校の校長代表、保育園長代表、幼稚園長代表、認定こども園長代表、子ども読書に関連する市職員などで構成されています。

また、さらに具体的な内容を調査・検討するため、別途ワーキンググループを設置しました。このグループには、読書活動に深い知見を持つ図書館司書や学校読書室司書をはじめ、子ども読書に関する課の市職員が参加しています。ワーキンググループで議論された内容は策定委員会に報告され、より深い協議が行われる仕組みとなっています。

・司書の配置について

読書活動における司書の役割の重要性について、市としても深く認識しております。司書は、子どもたちが本と触れ合い、学びの機会を得るために欠かせない存在です。

現在、小中学校では巡回型の司書制度を導入していますが、すべての施設に専任の司書を配置することは、財源や人材の制約の中で調整が必要な課題となっています。そのため、市としては最適な仕組みを検討しながら、体制の見直しや人員の拡充について引き続き取り組んでまいります。

また、子どもたちが必要なときにいつでも読書活動を支援できる体制を整えることが重要です。このため、限られた財源や人材を最大限に活用しながら、関係機関と連携してより良いサポート体制の構築に努めてまいります。

現在、松阪図書館や嬉野図書館では、必要最小限の人員体制の中で、工夫を重ねながら業務を進めておりますが、利用者数の増加や子どもの多様なニーズに柔軟に応えるため、さらなる改善を目指して取り組みを進めてまいります。具体的には、子どもの年齢や興味に応じた本の推奨リストを作成し、子どもたちが楽しく読書に取り組めるよう調査や研究を行います。また、図書館や学校図書館が魅力的な場となるよう、企画の実施や施設デザインの改善にも取り組み、市と図書館が一体となって進めてまいります。